

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時に、運営理念の唱和を行い共有、意識づけるようにしている。	法人理念に「認知症ケアの、リーディングカンパニーとして、安定的かつ継続的に、良質かつ安心、安全なサービスを提供し、良き企業市民として広く地域社会に貢献する」とある。利用者のストレスのない生活を目指し、支える介護、刺激の介護を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で開催されているふれあい動物訪問や、オレンジカフェ、各種イベントなど定期的に参加させて頂いている。	平成28年、吉田地区として初めて「オレンジカフェ」がスタートした。準備段階、開催に際しての協力や毎月1回行われるその場にホーム利用者も参加するなど地域との交流が確実に広がっている。新聞、テレビで当ホームの「ロボットセラピー」のケアが取り上げられたことにより問い合わせ等も多くなっている。小学校の依頼で認知症サポーター養成講座を行ったこともあり、昨年からのボランティアに加え、週数回、地区の方に傾聴ボランティアとして訪問していただくようになり、地域の人々にもホームの存在が徐々に浸透しつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域にて、グループホームの取り組みについて事例報告会を開催し、認知症について理解を深めて頂く機会を持っている。近隣小学校への認知症サポーター養成講座の実施。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にはホーム長、ユニットリーダーが出席し、そこでの意見を全体会議、ユニット会議等にて報告、周知するよう取り組んでいる。	2ヶ月に1回開催している。家族、区長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員がメンバーとなっている。運営状況、活動内容、利用者状況などを報告し質疑応答を行い、その中での意見・助言を業務に取り入れ改善につなげている。今後、災害訓練への参加を地区の方々に再度お願いしていきたいという意向がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域密着の担当者と密に連絡を取り、情報交換をさせて頂いている。また、不明な点、相談したい点があれば、電話、直接訪問し、意見交換をさせて頂いている。	市からのあんしん(介護)相談員の派遣が1ヶ月に1回あり利用者と話し何か問題があれば報告を頂いている。市が開催する勉強会・研修会には可能な限り参加し、都合で参加できない時は資料を頂き学んでいる。介護保険更新手続きについては、多くの利用者については家族が申請しているがホームで代行も行っている。認定調査には家族の同席も多く、利用者の現況を正しく伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議で研修を実施、チェックシートの活用、強化週間を設ける、注意喚起でスタッフの意識を高める等の取り組みを行っている。	法人の「身体拘束の取り扱いに関する要綱」が定められ、「身体拘束廃止推進委員会」も設置されている。身体拘束、虐待防止の研修は全職員に対する必須の研修として毎年行われている。年数回チェックシートを使い、言葉使い、行動など、拘束について自己点検し振り返る機会を設けている。	

愛の家グループホーム長野吉田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議で研修を実施、チェックシートの活用、強化週間を設ける、注意喚起でスタッフの意識を高める等の取り組みを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議で権利擁護に関する研修を実施し、スタッフ全員に周知、理解、活用できるように心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書等の読み合わせをさせて頂き項目ごとに理解、同意して頂けるよう説明をさせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時、運営推進会議等ホームに来られた際には積極的に意見・要望をうかがえるよう心掛けている。また、ホーム、法人で相談窓口を設置して頂いたご意見はスタッフ、上司に報告し周知及び改善に向けた検討をしている。	家族の訪問は多く、その都度、職員を限定することなく応対し、質問や要望を伺うようにしている。平成28年度には家族に集まって頂き意見交換する場が持てた。毎年法人が行う「家族満足度調査」にも意見が寄せられ業務に反映している。毎月、居室担当職員が、利用者一人ひとりの食事量、入浴状況、健康状態及び活動内容などをスナップ写真を添え文書で報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼時には連絡だけでなく意見等があれば話せる環境となっている。また、定期的にスタッフと個別面談を実施し意見、提案を聞く機会を設けている。また、全社でスタッフに対するESアンケートを実施している。	業務連絡・勉強会を中心とした全体会議、利用者のカンファレンス中心のユニット会議を月1回開催している。勉強会は職員が持ち回りで講師役となり行っている。家族アンケートと同じく職員アンケートも年1回法人として行い、職員の意見・要望などを吸い上げている。ホームは若い管理者やリーダーで構成されており、利用者だけでなく職員同士にも相手を思いやる姿が見られた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就労時間、夜間休憩時間、時間外等、勤務実績を明確にしている。社内コンテストや表彰制度があり評価される機会がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議等のホーム内研修やエリアの研修を定期的実施している。資格取得に向けた研修も実施しており、その支援制度も整備されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	善光寺平グループホームねっとの会員になっており、事業所間の交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に生活歴や嗜好等の確認をさせて頂いている。また本人のお話を傾聴、受容して「安心・安全」に過ごしてもらうための信頼関係を作るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に普段の様子や困っていること、サービス利用にあたり要望や意向を確認しケアプランに反映させ同意を頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望、関係事業所等と連携し必要とされる生活課題を見極めている。意向に沿ったサービスが受けられるよう情報提供しながら検討をして頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事など出来ることは積極的に行ってもらい、時には教えてもらったり共同で関わられる支援をさせて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に行事やイベント、畑作り等に参加、協力をして頂き、関わりを絶やさないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者についてはスタッフが把握できるよう本人との関係を記録している。また、外出する機会を多く設けており希望の場所や馴染みの場所へ出かけられるよう支援している。	お孫さんや友人、近所の方の訪問がある。在宅時の友人が誘いに来て外食を楽しんでいる方や家族と一緒に行きつけの美容院でパーマやヘアカラーをかけている利用者もいる。今年は年賀状を作成し家族等に出したという。家族とのお墓参り、正月の一時帰宅などの支援も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が互いに馴染みの関係をつくれるよう座席に配慮している。時にはスタッフが間に入り交流することを促進している。1F、2Fも自由に行き来したり合同で行事を開催したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も今までの関係を大切にし相談があれば応じる姿勢を示している。また関係事業所と連携を図りこれまでの情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々のコミュニケーションを積極的にとり、その会話の中で希望・意向の把握をし、困難な場合は日頃の行動・言動、表情等から読み取るように努めている。	日々の会話の中から一人ひとりの思いを汲み取り、常に利用者の意思を尊重しながらケアに当たるように心掛けている。ホーム利用前は街中で生活していた方々が多く、ホームの畑仕事には興味は薄いですが、比較的個人での買い物などを好む方が多く、意向に沿い近隣の商店などへ出向いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から家族等より情報を収集している。普段の会話の中、行動からも把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に過ごし方や生活リズム、できること、できないことなど把握したこと、職員から見た気づきなど記録に残したり、連絡ノートを活用して共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から意見を聞いている。ユニット会議で職員の気づきを共有することで現実的な介護計画を作成している。センター方式、ひもときシートを活用し、ご利用者様の言動の理由を考えることを意識出来るようにしている。	各ユニットに計画作成担当がいる。利用者や家族の要望を聞き長期6ヶ月、短期3ヶ月で見直しをしている。毎月ユニット会議で3名位の利用者のカンファレンスを行っている。サービス内容実施記録とサービス計画実施状況を各々が事前にチェックしコメントを書いてカンファレンスに臨んでいる。利用者に状況変化が見られたときには随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、ユニット会議等で情報を共有し、実践や介護計画見直しに活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的に地域の小学生と交流会を行ったり、地元のボランティアによる訪問、職員のタクティールケアの実践など柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		

愛の家グループホーム長野吉田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア訪問、自治会加入しホーム内外で活動している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関は本人、家族の希望で決定している。かかりつけ医の希望がない場合には、協力医療機関と連携して協力を頂いている。	基本的に在宅時からのかかりつけ医が継続されている。協力医による往診が月2回あり、訪問看護師が週1回来訪(24時間体制)し適切な医療が受けられるようにしている。通院は原則家族にお願いしているが、職員付き添いの時はユニットリーダーが家族へ結果を連絡しお互いが利用者の現況を正しく把握できるように情報を交換している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションには24時間連絡がとれる体制となっている。また週1回、訪問があり健康チェックや相談をさせてもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には訪問して介護サマリー等により情報提供している。入院中は定期的に訪問し、状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、看取りについての指針を入居契約時に説明し同意を頂いている。	契約時に説明を行っている。ホーム開設以来の3年間にホームで亡くなられた方はいないが入院中に亡くなられた利用者はいる。年間の勉強会に「終末期ケア・看取りについて」が組み込まれ職員は学習しており、条件が満たされた時に看取りを行うことができるように態勢を整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアル、AEDを備えている。また対応やAEDの使い方など勉強会を開いて取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防避難訓練を実施している。運営推進会議で有事の際には互いに協力頂けるよう呼びかけている。	年2回昼夜想定で訓練を行っている。そのうち1回は消防職員参加の下、通報訓練、消火器訓練、避難誘導訓練を行っている。非常通報装置一式、スプリンクラーなどを完備し万が一に備えている。ホームの自主的な取り組みとして、毎日、早番職員が「火の元チェックシート」で確認し予防にも取り組んでいる。運営推進会議で地域の方の訓練への参加も呼び掛けており、AEDの備え付け、食料品の備蓄等も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的にケアチェックを行うことや、認知症に対する勉強会を実施することで、個別を尊重し、プライバシーに配慮したケアを実践できるよう努めている。	毎年度、「プライバシー・尊厳の保持」について学習会を実施しており、職員はその主旨を理解し日々対応している。入浴時等の異性介助を嫌がる方はないが、利用者にそれとなく聞いたり反応を確かめながら利用者本位に行っている。比較的若い職員が多く見受けられたが、人生の大先輩である利用者への言葉遣いはゆっくりで丁寧に話がされていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者個々の希望を会話の中から聞き出してアクティビティ等、自己決定にて参加をして頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の流れを優先することなく、ご利用者を第一に考え、どのように暮らしていきたいかコミュニケーションの中から個別に希望を聞き出すようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出等のきっかけになるよう化粧や髭剃りなどの整容を出来る限りご自身でできるように支援を行い、服装も自分で選んでもらうよう行っている。希望により洋服の買い物付き添いながら支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付け等、職員と一緒にいる、時には調理方法を教えて頂いている。行事や外出時は食べたいものを希望いただき、好きなものを食べられるよう支援している。	法人の管理栄養士が献立を作成し調理担当スタッフが調理している。数名が介助、見守りを必要としているが多くの方は職員と一緒にテレビを見たり話をしながら食べている。ホットプレートを利用して皆が見たり手を出せるようなおやつ作りもしている。誕生会は本人に希望を聞いて寿司、ケーキ等でお祝いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を必ず記録し確認できるようにしている。変化がみられる場合には、主治医、看護師に相談しながら対応させて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。義歯使用者は洗浄剤を用いて消毒を行う。ブラッシングは出来る限り自身で行い、必要に応じて介助を行っている。		

愛の家グループホーム長野吉田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握、昼夜問わず個別にトイレへの声掛け、誘導、介助を行っている。	布パンツ、リハビリパンツの使用に関係なくトイレでの排泄を基本とし、声がけ、誘導、介助をしている。利用者が尿量に関係なく、厚目のパットを使用しているため薄目のパットを提案したが本人の安心のためにも「家と同じようにしているのが良い」ということになり厚目を継続しているケースもある。夜間、ポータブルトイレを使用する方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に体操を行ったり、水分摂取量の確認、夕食時には乳酸菌を摂取していただいている。それでも便秘がちな方には主治医、看護師に相談をさせて頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前、午後に限らず希望の時間帯に入浴をして頂いている。時には入浴剤を利用したり季節によって菖蒲、柚子を準備し入浴しながら季節感を味わっていただいている。	1週間に2回の入浴を計画しているがそのほかに希望があれば対応している。自立されている方もいるが職員1名が必ず見守りしている。浴室は準備の段階で温かくし、抵抗なく入れるように環境を整えている。入浴に対して拒否感の強い方もいるが、行動や結果のみにとらわれず職員全員が対処できるように情報の共有を大切にしている。ゆず湯、菖蒲湯などを行い変化をつけ、季節の移ろいを感じられるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の温度、湿度を必要に応じて調整し、その日に合わせて安眠できるよう配慮させていただいている。昼間の活動、生活内容によって声掛けながら睡眠時間が適度にとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は個々に職員が管理し服薬マニュアルをもとに服薬の介助を行っている。薬説明書をファイルし全員が閲覧、確認できるようにしている。服薬変更がある場合には、申し送りにて情報共有し変化の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好みや趣味など本人や家族より話を伺い本人が得意な家事やアクティビティを積極的にできる環境を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や本人の体調に合わせて散歩やドライブ、買い物に出かけられるようにしている。普段は行けないような場所でも、行事や個別支援によりできる限り希望に応じて支援している。	ホーム周辺の散歩を数名ずつで行っている。お花見、七夕まつり、菊花展などの見学を計画し、出かけた折には外食の時間も設けている。買い物やケーキを食べに出かけるなど、個別対応も行っており、1名から5名位で出掛けている。季節に合わせ、戸隠に新そばを食べに出かけることもある。	

愛の家グループホーム長野吉田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは家族の同意のもとで事務所管理とさせていただきます。金銭管理ができる方には予測されるトラブルを承知の上で管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に協力いただき、本人の希望があれば、自由に電話したり手紙を書いたりできるように支援させていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や生活感を感じて頂けるよう壁面飾りや季節の花等を飾らせてもらっている。	ユニットの入り口には来訪者にわかるように職員の名前と写真が掲示されている。階段やフロアの壁には利用者の日常のこやかなスナップ写真が飾られ来訪者もつい笑顔になってしまうほどである。1階と2階のフロアは同じ造りになっていて、利用者自らの説明書きを添えたスナップ写真、共同制作の貼り絵、習字等、見事な作品が飾られており、明るく楽しいリビングとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置いて誰でも自由に利用できるようにしている。個々のペースでお茶したり、会話したり、テレビをみたりと自由に過ごせる環境となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の持ち物説明時に、今まで使い慣れた家具、日用品等の持参を依頼し、居室が好みに合い自由に利用できるようにしている。	収納用の大きなタンスが備え付けられており、残りのスペースには使い慣れたものが自由に持ち込まれ居室作りが行われている。ベッド、テレビ、タンス、ソファ、テーブル、いす、仏壇なども持ち込まれている。ベッド使用の方、厚目のマットレスを敷いている方、家族の写真を飾ったり窓際に本を並べている方など、一人ひとりの個性を感じる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーとなっている。トイレは車椅子が入れるようになっており、浴槽も安全に出入りできるよう手すりを設置している。		